

特定非営利活動法人
日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町21-13 1階
Tel. 03-5206-5260 Fax. 03-5206-5261
Email: yunnan@jyfa.org
URL: http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路289号集大広場2011室
Tel. +86-871-3311468 Fax. +86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野惠蘭
印刷協力 株式会社日経印刷 株式会社技術評論社



彩雲の南

会報

第24号

発行日 2007年(平成19年)9月1日

雲南省迪慶チベット族自治州シャンゲリラの地に咲いた友好の花 支援第13・14校目小学校開校式



雲南省の学校の新校舎建設に寄せて ○ 日本財団 常務理事 大野修一



私が、初鹿野恵蘭さんと知り合ったのは、もう6年前になります。そのとき以来、恵蘭さんのお仕事をお手伝いできないものかと、ずっと念じておりました。ようやく、今回、アジア教育友好協会を通じて、雲南省の2つの学校で、新校舎の建設をお手伝いできることをとても嬉しく思っています。

日本財団は、日本の内外で様々な人道事業、慈善事業に取り組む人々を、財政的に支援してきました。我々の基本的な考え方は、「自ら努力する人に、その機会を与えよう」というものです。その意味で、ほとんど総ての事業分野で中核を占めるものは、教育であると考えています。

私は、毎回、中国に来るたびに、中国の都市の変貌に驚かされます。それは、経済の自由化によって、中国人民に本来備わっている大変優れた能力が、自由に發揮されるようになったからでしょう。しかし、まだ中国国内の地域間の格差が大きい、などの課題が残されています。更なる発展のために、辺境の人々も、努力して、自らの状況を改善していく必要があります。その鍵を握るのは教育ではないでしょうか。

今回、校舎が新築されたこの2つの小学校は、アジア教育友好協会の斡旋により、日本の2つの小学校と姉妹校提携を結ぶことになっています。これから、両校の子供たちが、姉妹校提携を通じて、文通や、写真、絵画の交換など様々な交流を進めていくことになるでしょう。そして、これらの交流を通じて、日中両国の未来を担う子供たちが、両国との友好と相互理解に貢献してくれるでしょう。

古来、日本は、中国からありとあらゆるもの学んできました。一方、日本は、明治維新以後、この漢字という、優れた表記手段を活用して、欧米の近代科学技術や、思想哲学を巧みに取り込むことに成功し、その成果を、今度は、日本から、漢字を共有する中国に對し伝えたのは周知の事実です。私は、中国文明の受益者である日本の一人の国民として、日本人と中国人が、対等の立場で、相互に学びあい、相互に助けあうべきである、と考えます。日本財団の事業支援が、このような日中両国の相互交流に貢献できるとすれば、こんなに嬉しいことはありません。

中国には、穀物は1年で育つ、木は10年、しかし、人材育成には10年かかる、ということわざがあるそうですが、人材は一朝一夕になし得るものではありません。しかし、であればこそ、息の長い教育の取り組みが必要です。百年の大計のなかで、このささやかな学校建設が中国の人材開発の大きな樹に育って行くことを期待しています。



中国側の協力機関 雲南省華僑弁公室 雲南省シャンゲリラ県華僑弁公室 シャンゲリラ県教育局
その他、児童と親御さんははじめ多くの村人、近隣中学校の生徒たち ありがとうございました！

2007年5月から6月にかけて、当協会の支援による3校の小学校の開校式が相次いで開催されました。それぞれの小学校がアジア教育友好協会の仲立ちによって日本の小学校とフレンドシップ協定を結び、子供たちの国際交流がいよいよ開始します。当協会の小学校建設プロジェクトは7年目をむかえました。今後は、今回開校した3校をはじめとして、子供たちをとりまく保健衛生環境を中心にフォローアップ事業を重点的に行っていく予定です。

シャンゲリラの子供たちの笑顔、日本からの参加者との交流の様子をどうぞご覧ください。



写真1) チベット族の衣装で子供たちがお出迎え 2) 10年20後の子供たちの成長を祈って記念樹を植樹 3) 日本側参加者を代表して、歌川令三さんにご挨拶をいただきました 4) 日本側参加者は全員はっぴを着て、炭坑節を披露しました 5) 学校にできたトイレ



2007年6月11日～13日、イギリスオックスフォード大学より招聘を受け、同大学とアメリカのコーネル大学との合同主催による「発展途上国支援への新方向会議」に、初鹿野理事長が出席しました。出席者は、欧米18カ国、173名の学者、研究者、そして実際に活動している国際基金、国際銀行、アフリカ開発銀行、企業など。協会は唯一、日本からの出席者となりました。また、モザンビーク前大統領の Joaquin A. Chissano 氏も議長として会議に出席し、自國に関する事例報告を行なうなど、非常にレベルの高い会議となりました。この会議の目的は、「発展途上国支援の新たな方向性」についての議論にあります。現在、世界中の国々、団体、個人が、発展途上国に対して支援活動を行なっていますが、その支援システムには、時に「もたらすデメリットは、メリットよりも多い」と非難の声が上がる通り、様々な問題点が指摘されています。会議ではそれら問題点が、実例を元に提議されました。議題の内容は、大きく分けて以下の7項目に分けられます。

1. 支援システムの「見直し」
2. 支援の影響力および有効性（アメリカMCC株式会社の事例から）
3. 支援脆弱国に対する認知
4. 新たな支援システム
5. 支援による政治的な影響（モザンビーク前大統領の自國の事例から）
6. 新たな支援者の援助視野
7. 多目的支援組織と支援者のこれからの挑戦

会議中、最も大きな問題となったのは、支援の過程で、支援者と被支援者の間に生じる、深刻な腐敗についてです。支援の目的、その方法によって、支援が本来あるべき「無償」協力の形から外れ、被支援地にとっては有害無益にしかならない支援が、度々行なわれている実態の報告がありました。協会はこれまでの7年の活動の中、複雑な中国の行政の間で腐敗することなく、支援者・被支援者の間に問題が発生することもなく、無償の援助を徹底して進め、また常に発展し続けてくることができました。これは協会設立当初からの方針でもありました。

この会議で、協会がこれまでの活動に対して自己評価を行なったことは、成果の一つであったと考えています。また世界各国の有効な支援方法と問題点を知ることで、新たに広い視野を得ることができます。協会はこれからも、初心を忘れることなく、現地が本当に必要としている支援の形を追及してゆきたいと思います。



1) モザンビーク Joaquin 前大統領（左）と初鹿野理事長（右）
2) 趣のあるオックスフォード大のキャンパス
3) 会議中の様子
4) 参加者の所属機関のパンフレットがずらり当協会のパンフレットも沢山の方に手にとっていただきました



NPO天眞会の青木宏之理事長は「天眞書法塾」を主宰しています
青木先生の作品が書き上げると、会場から拍手がおこりました

2007年5月22日、中国雲南省昆明市にある文学技術会連合会にて、昆明市帰国華僑聯合会、昆明市文化芸術界聯合会主催「書道交流会」が開催されました。この交流会は、日中の書道家が集まり、「書道」を通じた交流を深める目的で開催されたもので、今回で第三回となります。協会支援者であるNPO天眞会の青木宏之理事長、吉田晶子事務局長、中谷耀子さん、小寺かをるさん、菅原裕子さんが参加され、「豪筆（力強く素晴らしい筆づかい）」を披露してくださいました。また、協会からは初鹿野恵蘭理事長、東京本部七田、雲南支部林が出席しました。

中国側からは昆明書画院と、昆明書法家協会の方々が参加し、互いに書の腕を披露し、交換するなど、伝統文化を通じての交流を楽しみました。青木宏之さんは、「最近見かける町の看板は、パソコンで作られたものばかりで、書道が使われなくなったのが寂しい。日本や中国で、もっと書道を盛り上げてゆきましょう」と述べ、中国側参加者からも賛同の声が上がりました。

日中に共通した文化である書道は、今後も交流手段の一つとなることだと思います。協会では書道のほか、特徴ある伝統文化を通じた日中交流に、今後も力を入れてゆきたいと思います。



第11校目白雲小学校開校式式典 初めての日本人を迎えた 人々の優しさ、新たな課題



これまで雲南省に3つ
の小学校建設資金を支
援してくださった
NPO天眞会
青木宏之理事長

白雲 小学校のある村は、昆明市から高速道路を南へ3時間半ほど行った、建水県という地域に属します。村は、土を固めて作った家が立ち並び、水牛や鶏がその路地を行き交います。その赤茶けた村の中に、ひときわ目を引く立派なお寺がありました。これが白雲小学校の新しい校門です。NPO天眞会からの資金協力を得て、当協会が校門の修復、宿舎改築を行いました。校門の前ではおそろいのジャージを来た児童たちが一人懸命手をたたいて日本からのお客様をお迎えしてくれます。開校式では、初鹿野理事長、そして支援者であるNPO天眞会青木宏之理事長からご挨拶がありました。青木さんは、日本と中国の交流の歴史の長さ、漢字が日中双方で影響しあってできているなどを述べられ、子供たちも皆真剣に話に聞き入っていました。日本という国を意識したのは初めてだったのではないかでしょうか。この日は、日本人がやってくるということでこの地域全体が休日となり、まるでお正月のような盛り上がりとなりました。

日本人を見るために、隣の山から2時間以上かけて来た、というおばあちゃんもいました。また、離れた町からやってきた果物や乾物の市がならび、村を賑わせていきました。午後からの子供たちの家庭訪問では、貧しいながらも懸命に生きる村人たちの姿が見受けられました。

今回この村を訪問し、目にした建物の中で一番立派なのは学校でした。村には公共トイレが1つあるだけで、学校の中にさえないトイレはありません。家は、人と家畜の牛が同じ部屋に同居するような作りになっており、この村の衛生状態が心配されます。今後、当協会では建設支援へのフォローアップ事業として、学校を中心とした地域全体の衛生管理教育や改善活動を推進していく予定です。どのように現地の住民を主体とした支援の形にしていくか考えさせられ、課題を残した開校式となりました。

最後になりましたが、本校で3校目となる支援をしてくださったNPO天眞会に改めて感謝申し上げます。

村民総出のお正月のような賑やかな開校式でした



「うちに遊びにいらっしゃい！」おばあちゃんが熱心に話しかけてきます

家から持ってきた木の実をくれた優しいおばあちゃんに感激！



雲南省司法府施長官（中央）と、現地協力者、NPO天眞会の皆さん

現地協力機関
雲南省司法府
雲南省帰国華僑聯合会
建水県教育委員会



- 1) 思茅地域の小学校を視察
土の壁が崩れている教室
- 2) 村の家庭訪問では暖かい
おもてなしをうけました
- 3) 工期が遅れている菜戸小
学校の校舎建設現場にて
- 4) 設計図と実際の建設現場
を元に施工業者の確認を
しました
- 5) ブーゲンビリアを持った
子供たちが我々を出迎え
てくれました



雲南省思茅地区景東県の山奥、曼等郷にある当協会支援第12校目菜戸小学校は、2007年6月に開校を迎える予定でしたが、例年よりも早い雨季の訪れにより工事が遅れ、開校が延期となり、開校式の旅の予定が、急遽建設現場視察に変更となりました。これまで支援をした小学校の中にも、雨季や悪天候の影響で、開校を延期せざるを得なかったことが幾度かあり、今後の課題点の一つとなっています。

今回の視察には、初鹿野恵蘭理事長、北原茂実理事、小澤文徳顧問、会員の峰尾勝美さん、峰尾洋子さん、東京本部・狩野の総勢6名が参加しました。また、現地パートナーとして、雲南省司法庁・雲南省帰国華僑联合会にもご同行いただき、日程調整や現地との交渉面で多大なご協力をいただきました。

一行は約100キロの舗装されていない悪路を、4時間半かけて、ゆっくりと慎重に走行。ところどころ、数日前の雨の影響か、道を横断するように川ができていて、道路環境の厳しさを実感しました。

菜戸小学校に到着すると、まだ足場が組まれたままの校舎の前で、イ族の民族衣装を着た学校の先生方、村人たちが、笑顔で出迎えてくれました。実際の建設現場を、協会の関係者だけでなく会員の皆さんも実際に見られたことは、大きな意味があったと思います。現地教育局、小学校周辺地域の村民から説明を受け、設計図や実際の建設現場を見目で見たことで、建築技術の質に問題がないことが保証されました。

また、当小学校の支援にあたって、資金協力をいただいた北原理事からは、感激の言葉をいただいたと同時に、学校建設に関する指摘も出されました。雲南省の学校では伝統的に、トイレ、水道は建物の中には設置されません。その理由を、現地設計者は「トイレや水道は衛生的でないため」としています。その点について北原理事は「学校は勉強だけでなく、人間としての基本的な生活習慣を学ぶべき場所。トイレや水道は汚いから外に置くというのではなく、汚くしない、掃除をする、そういういた習慣を育ててゆくべきだ」と述べ、現地責任者もその意見に賛同しました。いただいたご意見は、協会として今後の建設方針に取り入れる考えです。

雲北原理事、 視察から衛生概念を 育てる支援の大切さ実感



無垢な笑顔が伝えた、雲南省の教育事情 ～第一回初鹿野恵蘭写真展開催～



皆さん一枚一枚丁寧に見てくださいました

左から 当協会片岡義顧問、初鹿野理事長、
サッポロホールディングス岩間辰志名譽顧問

最終日、ボランティアの皆さんで記念撮影！

宣伝にご協力いただいた啓文堂林雅之社長
初鹿野理事長が自ら写真の説明をします

2007年4月16日(月)～22日(日)、都内の新宿中央公園内にある「エコギャラリー新宿」で、中華人民共和国駐日本大使館のご後援をいただき、協会初主催となる写真展「第一回初鹿野恵蘭写真展～中国雲南省大自然とともに生きる少数民族の子供たち～」を開催しました。

第1回目の今回は、初鹿野理事長が活動を始めてからの10年間（協会を設立してからの7年を含む）、自分の足で現地に赴き会った、貧しさの中でも豊かな心を忘れない子供たちの笑顔の写真を中心にして、30点の作品を展示しました。

「プロの写真家ではありませんが、子供たちの笑顔を通して、より多くの方に雲南省の教育事情や、協会の支援活動を知ってもらいたい」という初鹿野理事長の思いがこめられたこの度の写真展ですが、連日降り続いた寒雨にもかかわらず、一週間で430名の方が会場を訪れました。来場者からは、「雲南省の子供たちの輝く瞳が印象的で、見ていると素直な気持ちになれました」「貧しくも逞しく生きている子供たちの、希望に満ちた笑顔が、現代社会で忙しく生きる私たちが忘れていた大切なものを思い出させてくれた」といった様々な感想をいただきました。日曜日を利用して公園に遊びに来ていた子供たちも、自分と年齢の変わらぬ子供たちの境遇を目で見て、「日本って恵まれてると思った」と驚いた様子でした。寄せられたたくさんの言葉から、今回の写真展が当初の目的を達成できたことを実感しています。

今回の写真展が大盛況だったのも、協会会員であり、プロのカメラマンである鈴木肇さんを中心としたボランティア・会員・支援者の皆さまのお力添えがあったからです。準備作業、当日スタッフに尽力してくださった皆さま、本当にありがとうございました。



【後援】中華人民共和国駐日本大使館【企画】鈴木肇【事前準備ボランティア（敬称略・順不同）】鈴木肇、戸谷紀潮、高田良一、余山敏和、神立めぐみ、安達武史、小澤文徳、片岡巖、加藤久、北原洋、小出和夫、杉山ちひろ、張萌、順智、水口俊裕、山本忠明、吉村周吾【当日ボランティア（敬称略・順不同）】中村有里子、余山敏和、鍛田寛司、神立めぐみ、鈴木肇、竹間梨沙、相澤武志、高木康之、細井国裕、小林陽子、安達武史、狩野信子、木村由利枝、山口千、伊藤厚志、遠間菜津子、吉村周吾、孫崇君、近藤鶴一、安達武史、川口幸二、木村紗栄、伊藤憲治、前橋宏泰【協力】株式会社技術評論社／昭和情報プロセス株式会社（印刷協力）／京王書籍版画株式会社（「啓文堂」販売協力）【オープニングパーティーご挨拶】片岡巖様（株式会社技術評論社社長・当協会顧問）、岩間辰志様（サッポロホールディングス株式会社名譽顧問）、太田裕久様（NPO 地球映像ネットワーク理事長）、根岸恒次様（NPO 21世紀のカンボジアを支援する会理事長・当協会顧問）、前田希三様（雲南懇話会代表幹事）



はじめまして！

地域に密着した活動の場づくり 大宮支部が発足しました



前列左から3人目の赤ちゃんを抱いているのが寺内支部長

2007年5月3日、埼玉県大宮市で協会「大宮支部」発足懇親会を開きました。

協会設立から7年、東京本部、雲南昆明支部を中心に活動を続けてきましたが、会員の皆さまから「日本国内でも支部を」という声がたびたび上がっていました。先日、会員の皆さまにお願いしたアンケートの、「支部長を引き受けいただけますか」という欄にも、20名以上の方から「引き受けます」という嬉しいお返事があり、その流れを受けて、このたび協会初の日本支部「大宮支部」を設立する運びとなりました。

大宮支部長を引き受けくださる寺内明子（雲南省出身）さんは、協会設立当初から献身的に活動を支えてくださっている協会会員です。今後、寺内支部長を中心、補佐役で会員の鳥羽清弘さんをはじめとする埼玉県大宮の皆さんとともに、国際友好の輪を広げてゆきたいと考えています。懇親会には、寺内支部長はじめ、雲南大好きの埼玉会員やボランティアの皆さん23名が集まりました。東京本部からも初鹿野理事長、初鹿野恵蘭理事、スタッフ七田が参列しました。今後、協会では、会員を中心とした地道で活気溢れる支部を日本各地に発足してゆきたいと考えています。

【大宮支部発足会参列者の皆さん（敬称略・順不同）】寺内明子（大宮支部長）、鳥羽清弘（司会）、寺内憲一、佐伯義博、山中興次郎、圭生、宇佐美登司子、渡辺端、服部惠美子、丸田智代、市川由美子、星野京子、松尾ユイ、川口幸二、古川文絵、平林知人、初鹿野薰・道子、初鹿野仁、李穎、吉村洋次、遠間菜津子、初鹿野恵蘭（理事長）、7月伶（東京本部）

協会トップニュース

都内八王子にて、第7回定時総会開催

東京／6月2日・文化交流

2007年6月2日（土）、東京都八王子学園都市センターにて、第7回定時総会が大盛況のうちに終了いたしました。

当日、会場に集まったのは役員顧問、協会会員、関係者の総勢29名。総会が始まるとともに、北原茂実理事から「初鹿野理事長が1人で始めた協会の活動も、今やたくさんの方々に支えられながら成長立っています。皆さんの暖かいご支援に感謝します」と開会のご挨拶をいただき、続いて初鹿野理事長から各席の皆さまへ、日頃のご支援に対する感謝の気持ちが述べされました。今年は趣向を変え、初鹿野理事長がスライドや動画を用いながら、雲南省の概要、協会の主だった活動、最新のニュースなど活動全般について紹介する時間を設けました。普段、会報誌「彩雲の南」やwebサイトで写真を見る機会はあっても、動画を見る機会はほとんどなかった出席者の方々は、初めて見る開校式のVTR、子供たちの生の声、雲南省怒江の厳しい大自然の動画に、熱心に見入ります。「動画を見て、雲南省の厳しさや貧しさがはっきりと分かりました」「開校式、これは一度は行かないといけませんね」など、様々な感想をいただきました。

今年の総会には、会員だけでなく、会員のご家族の方がお見えになるなど、例年以上に暖かく、賑やかなものとなりました。協会の活動にいつも関心を向けてくださっている会員、支援者の皆さま、ありがとうございました。

【総会ご出席の皆様（敬称略、順不同）】

初鹿野恵蘭理事長、遠藤功理事、中村有里子理事（司会）、大鷲修平理事、北原茂実理事、初鹿野薰理事、桂正徳理事、佃純誠監事、小山久子顧問（議長）、片岡巖顧問、小澤文徳顧問、根岸恒次顧問、寺内明子（大宮支部長）、初鹿野仁、峰尾勝美、佐伯義博、初鹿野道子、泉弘子、藤田文彦、相澤武志、田中由美子、東郷浩、安達武史、奥脇弘久、東京本部（七田、狩野）

【当日ボランティア協力】川口幸二（カメラ撮影）、小山巖太・遠間菜津子（セッティング）

昆明市人民政府・許雲副市長来日 日中の技術交流に大きな期待

東京／4月20日・文化交流



北原脳神経外科で説明を受ける一行

明でぜひ病院を作ってほしい」と述べ、日本と雲南省との今後の技術交流に大きな期待を表しました。中国では、経済が大きく発展する中で医療システムの深刻な問題に直面しています。この問題解決に向け、今回の交流は確実に役立つ、有意義なものとなりました。

ご協力ください！

NPO法人日本・雲南聯誼協会では、中国雲南省の貧困少数民族への小学校建設・フォローアップ支援を柱とした活動を行っております。当協会パンフレットや会報バックナンバーをご希望の方、入会のお申し込みについては協会東京本部（本誌表紙頁の上部をご参照ください）までお気軽にお問い合わせください。

また、募金の振込み先は以下の口座となります。郵便振替口座は、専用払込票をご用意しておりますのでご入用の方は東京本部までご連絡ください。皆様からの暖かいご支援・ご協力を待ちしております。

日本雲南聯誼協会（ニホンウンナンレンギョウカイ）宛
■三菱東京UFJ銀行 目黒駅前支店 普通 1300380
■郵便振替口座番号 00100-8-610935

拡がる異業種人脈の輪～教育支援活動を紹介する交流会～

東京／7月16日・文化交流



岩間辰志の機会をもつて、岩間辰志名譽顧問が、2007年7月16日の海の日、協会の活動を紹介する交流の場をセッティングしてくださり、初鹿野理事長が参加してまいりました。

岩間さんの呼びかけで当日ご参加くださったのは活躍されている分野、職業、出身国も異なる10名の方々。トンバ文字や雲南省の奥地で建設を進めている独龍江の小学校について、いろいろ質問をしてくださったりと、協会の教育支援活動に高い関心を示してくださいました。こうした異なった職業の方々と新しい分野の話を通じて交流できたことは、新鮮でとても有意義でした。貴重な体験の中、交流会のために足を運んでくださった皆様に感謝申し上げます。

【交流会参加者（五十音順、敬称略）】

岩間辰志（サッポロホールディングス株式会社名譽顧問・当協会会員）、今川充（全日本本川柳協会会長）、曹喜澈（東海大学外国语教育センター教授）、都筑信（埼玉県副知事）、西田淑子（漫画家）、林えり子（作家）、本山久美子（きゅりあっぷセンター新宿センター長）、李順玉（有限会社梅花代表取締役）



交流会は恵比寿のレストランで行われました

2007年度第一回役員会開催

東京／4月14日・文化交流



2007年4月14日（土）、2007度第一回役員会を、株式会社・技術評論社にて開催いたしました。新年度初の役員会となる今回の議題は、

- (1) 日本NGO支援無償資金協力契約式の報告
- (2) 定時総会に向けての準備について
- (3) 2007年度の活動予定
- (4) 協会会員アンケート調査について
- (5) 東京本部の職員採用及び東京本部・雲南支部のアルバイト採用について

以上の5点です。年度始まりでお忙しい中、協会役員ほぼ全員が駆けつけてくださいました。まず初鹿野理事長から、昨年度の外務省資金協力の決定が伝えられるなど、喜びの声が上がりました。その調印式のため、3月に中国重慶市を訪れた初鹿野理事長、北原理事からは訪中の様子が語られました。

役員会、また役員会後の懇親会では片岡巖顧問に場所の手配をしていただきました。いつも協会の活動にご尽力いただき、ありがとうございます。

役員の皆さま、お忙しい中、ありがとうございます。

【役員会からの出席者（順不同）】

初鹿野恵蘭理事長、北原茂実理事、初鹿野薰理事、桂正徳理事、中村有里子理事、大鷲修平理事、村松健児監事、佃純誠監事、東京本部（七田、狩野）

【懇親会からの出席者（順不同）】杉谷隆志専務理事、片岡巖顧問

※日本ケイエム交易株式会社は、NPO法人日本・雲南聯誼協会の活動を応援しています。



雲南省の田七人参が
現代人の血液を
サラサラに！！

純粹田七

じゅんすいでんしち

輸入・販売

日本ケイエム交易株式会社

〒193-0834 東京都八王子市東浅川町302-7

FAX 042-659-2996

Email:jkm-hajikano@nifty.com

協会会員価格：7,500円 一般価格：9,000円（1瓶100グラム入）

雲南省ってどんなところ？



雲南省は中国最西南部に位置し、ミャンマー、ラオス、ベトナムと国境を接しています。面積は約39万km²（日本とほぼ同面積）、人口約4300万人です。土地の94%が山地で、海拔76mの河口から6740mの梅里雪山という高山も存在する特色豊かな地域。世界遺産登録地も多く、最近では観光面からの注目を浴びています。